

Martha 婦人のおはなし

僕は普段、フィルターを乗り越してメールボックスに入ってくるスパムを皆と同様すぐに削除している。スパムは、体重減量、好きな分野の学位取得、豊胸、ペニス増大など僕の中に潜在するファンタジーに気付かせてくれるものではないかと興味をそそるのではあるが、手に入れようという絶好の機会は決して訪れないようである。

けれども、丹精こめて書かれた質の高い手紙、例えば完成度が高く心を揺さぶるような話には秘かな愉しみがある。その中には殆ど文学作品といえるような、ある意味 Chekov に近い質のものもある。もし仮に Alice Munro が苦境に陥り、スパムを書いて生計を立てなければならなくなったら、僕らの銀行口座情報を得るためにこんなお話を書くのではないだろうか。

最近 Martha 婦人という人から一通のメールを受け取った。彼女はさすがに身の上話をきりだした。

「私は Martha Stirling 婦人と申します。癌に侵されています。夫はイギリス人技術者で Dennis Stirling と申しますが他界致しました」彼女のお話はここをクリック。

Martha 婦人は僕が一瞬にして親近感をもった女性である。自分自身の苦悩に苛まれ - 発作に襲われ、医者は「癌のため残り幾ばくもない命」と宣告、そして当然のごとくイギリス人の夫は他界という不幸な境遇にある - にもかかわらず婦人は僕のために特別な時間をさいてくれたのだ。

Martha 婦人の何に惹かれたかということ、婦人は僕の中にある悪ではなくて善に興味を示してくれたこと。一方、大抵のスパムメールといものは僕のもつ弱い心 - 株式市場で一発大もうけをしてやろうという貪欲な心、そしてペニス、胸板、体重、低学歴などの劣等感 - に付け入ろうとデザインされている。Martha 婦人は僕が良い人間であることを知っていて僕を選んだのだ。

僕が「1 千万英ポンド」の使い道を任せる信頼に値する人間だと知っているのだ。そのお金は僕個人が自分勝手な目的に使うのではなく、「未亡人、男寡、孤児、貧困者、虐げられた者、身体障害を持つ子供、不毛の女性、本当に金銭的に困っていると証明のある者を支えるための資金」で、僕の銀行口座に振り込む準備ができているという。

僕が優しく信頼の置ける心の持ち主であると多くの人々にやっと気づいてもらったのはこのブログのせいだともう少しで錯覚するところであった。そうでなければ Martha 婦人のメールを受け取ったその 5 日後に

Karen 婦人、やはり「夫はイギリス人で他界」から同じような手紙を突然受け取った事実をどう説明できようか。彼女の身の上話は輪をかけて悲惨である。「夫は病院に診察に行く途中、スペインでの列車爆破事故で死亡」悲劇なことに彼女自身も癌に侵されているという、彼女のお話はここを[クリック](#)。

Karen 婦人は6百万英ポンドを僕の口座に振り込むという。彼女の目標は「恵まれない人々に笑顔を取り戻させてあげること」だという。

お分かりのとおり彼女はまさにそれを実行しているのだ。

Ulli Diemer /文 (英語原文)

Motoko Westefeld/訳